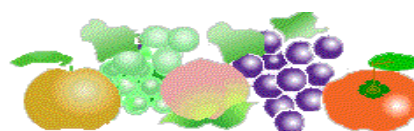


令和5年度 しらかわ果樹情報第6号



令和5年7月13日
福島県県南農林事務所農業振興普及部

1 気象概況

6月6半旬から7月1半旬までの平均気温は23.3℃で平年より2.2℃高くなりました。降水量は33.0mmで平年比47.6%と少なくなりました。日照時間は43.7時間で平年比124.9%となりました。

表1 月別気象表（白河市）

平年：1981～2010年

月	半旬	平均気温（℃）			最高気温（℃）			最低気温（℃）			降水量（mm）			日照時間（hr）		
		本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比（%）	本年	平年	平年比（%）
6	6	22.9	20.7	2.2	27.6	25.2	2.4	19.7	17.1	2.6	30.0	32.7	92	13.0	17.2	76
7	1	23.6	21.4	2.2	28.3	25.9	2.4	19.6	17.9	1.7	3.0	36.7	8	30.7	17.8	172
平均・合計		23.3	21.1	2.2	28.0	25.6	2.4	19.7	17.5	2.2	33.0	69.4	47.6	43.7	35.0	124.9

2 向こう1か月の天候の見通し（7月8日から8月7日まで）

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高く、特に、期間の前半は、かなり高くなる見込みです。また、低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は、平年並か多い見込みです。

3 発育状況

果実肥大は、どの品種も暦日比較では平年より大きいですが、満開後日数比較では「ふじ」は平年並ですが、その他の品目はやや小さくなっています。

表2 管内の各品目の果実肥大状況（7月1日時点）

	あかつき		幸水		豊水		ふじ	
	縦径	側径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径
今年（mm）	47.7	47.5	32.7	39.5	34.3	34.6	44.3	50.4
平年（mm）	45.3	42.6	31.1	35.6	31.0	32.9	40.1	42.9
平年比（%）	105	112	105	111	111	105	110	118
昨年（mm）	46.4	45.2	29.6	34.1	32.0	34.0	41.3	44.7

注）調査地点：「あかつき」「幸水」「豊水」は白河市東上野出島、「ふじ」は白河市本沼

4 栽培上の留意点【凍霜害の事後対策として、新梢管理を徹底しましょう！】

（1）共通

ア かん水

- 5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度のため、**1回のかん水は25～30mm程度（10a当たり25～30t）を目安とし、5～7日間隔で実施する。**保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くする。

イ 草刈り、マルチ

- ・樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行う（地表面からの蒸発散量は、草生園において刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされる）。
- ・刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努める。

(2) モモ

ア 早生品種の収穫

- ・現在、早生品種の収穫が始まっている。核や胚に障害を持つ果実は、成熟が早まりやすい傾向にあるため、果肉の軟化に注意し、収穫が遅れないようにする。

イ 修正摘果

- ・硬核期が終了し、肥大不良果や変形果、核に障害を持つ果実などが徐々に目立ってきている。収穫を控えた中生種の修正摘果は数回に分けて丁寧に実施する。果頂部が変形している果実や縫合線が深い果実、果面からヤニが噴出している果実、果皮の一部が変色している果実、極端に肥大の早い果実、果頂部の着色が早い果実などは、核や胚に障害があることが多いので、これらの果実に注意して摘果を実施する。

ウ 核障害多発時の注意事項

- ・果樹研究所のDVRモデルによる「あかつき」の収穫期予測では、収穫開始日が平年より7日早い見込みである。収穫期は地域によって差があることから、果樹研究所との平年の生育差を考慮するとともに、園地ごとの成熟状況を確認して収穫期を判断する。
- ・核障害の発生が多い場合には、核や胚に障害を持つ果実が早熟する傾向にあることに注意する。
- ・「あかつき」等中生種は今月上～中旬ごろから着色期に入るため、夏季せん定、支柱立てや枝吊り、反射シート設置など収穫直前の管理作業は、時期が遅れないよう計画的に行う。
- ・降雨により園内に停滞水が見られる場合には、明きよを掘る等速やかな排水に心がける。

(3) ナシ

ア 新梢管理

- ・「幸水」では、腋花芽着生向上を目的として新梢誘引を実施する場合、新梢生長が停止する前に予備枝誘引作業を完了する必要があるため、まだ誘引を終了していない場合は急いで作業を進める。
- ・新梢誘引は樹冠内の光条件を改善するとともに、薬剤防除の散布むらを減らし、翌春における長果枝棚付け作業の効率化なども期待できるため、「幸水」以外の品種でも積極的に実施する。

イ 着果管理

- ・仕上げ摘果はできるだけ速やかに終了させる。着果過多にならないよう、摘果は単位面積当たりの着果量を確認しながら作業を進める。なお、裂果が観察される時期の摘果は他の果実の裂果発生を助長するおそれがあるので控え、裂果が収束（満開後90日頃）したら修正摘果を行う。

(4) リンゴ

ア 修正摘果

- ・果実肥大や果形、傷害の有無等の区別がつきやすい時期なので、小玉果、変形果、病害虫被害果、サビ果を中心に修正摘果を実施し、適正着果に努める。特に、霜害を受けて摘果を遅らせていた園地では、仕上げ摘果実施後でも新梢の伸びや葉数に注意し、適正着果となるよう修正摘果を行う。

イ 枝吊り・支柱立て

- ・果実の肥大に伴い枝が下垂するため、支柱立て及び枝吊りを実施し樹冠内部の受光体制の改善、枝折れ防止及び防除効果の向上を図る。なお、高温条件下では、果実に直射日光が当たると日焼け果が発生しやすくなるため、果実が果そう葉で隠れるようにするなど着果位置に留意する。

(5) ブドウ

ア 摘粒

- ・着房過多は、糖度上昇の遅れや赤熟れ果の発生要因となる。また、耐寒性の低下や翌年の発芽不良、樹勢の低下などにも影響することから、**ベレーゾン(水回り)期までに着房数の見直しを行い、適正着果量に調整する**。最終着房数の目安は、「巨峰」では3.3㎡当たり9～10房、「高尾」では10～11房とし、樹勢や今後の天候の推移をみながら適宜調整を行う。特に、夏季に低温・日照不足が続く場合には、着房数の制限が必要となる。

イ 袋かけ・傘かけ

- ・摘粒作業が終わりしだい、薬剤散布や袋かけ・カサかけを行う。**この作業は病害虫防除や果実の汚れ防止、日焼け防止のために重要な作業である**。また、使用した枚数を把握し着果量調整の目安とする。棚面が明るい部分では果房に直接強い日光が当たり、日焼けなどの高温障害を引き起こすため、**遮光率が高いカサの利用や直射日光が当たらないように新梢の誘引を見直す**。

5 病害虫防除上の留意点 (使用薬剤は防除暦を参照してください)

本年は生育が平年よりも大幅に進んでいるため、防除が遅れないよう注意しましょう！

(1) 病害

ア リンゴ褐斑病、輪紋病

- ・病害虫防除所による6月中旬の発生調査では、**本病の発生ほ場割合は、平年よりやや高い状況だった**(令和5年6月29日付け病害虫防除情報)(図1)。**梅雨期は本病の二次感染期となるため、今後発生が急拡大するおそれがある**。**本病の発生が既に認められる場合は、10日間隔での薬剤防除を徹底し、感染拡大を防止する**。
- ・薬剤散布前には徒長枝の整理等の新梢管理を行い、薬剤の散布むらをなくす。



図1 リンゴ褐斑病発病葉(令和5年6月13日撮影)
(写真提供:病害虫防除所)

★類似病害との見分け方★

- ・褐斑病の病斑には分生子層(小黑点)が見られる。
- ・分生子層の有無は10倍ルーペ等で確認できる。

(図2 2022年3月 山形県病害虫防除所 病害虫防除技術情報(No.16)より)

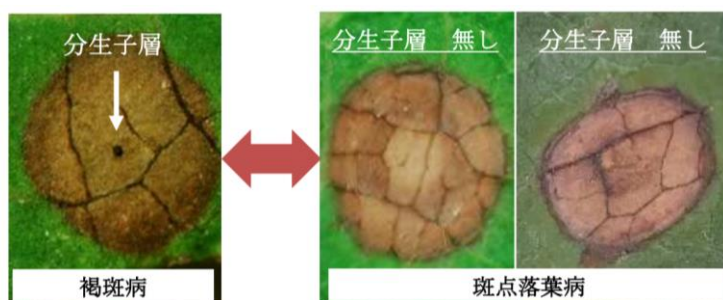


図2 褐斑病(左)と斑点落葉病(右)の病斑比較

イ リンゴ輪紋病・炭疽病

- ・輪紋病または炭疽病の発生が多い園地では、防除暦に従い防除を行う。なお、炭疽病の発生を抑制するため、園地周辺のニセアカシア、シナノグルミ、イタチハギなどの伝染源植物を除去する。

ウ モモせん孔細菌病	<ul style="list-style-type: none"> ・梅雨期は二次感染により発病が急増するおそれがあるため、引き続き注意が必要である。晩生種で本病の発生が多い場合は、防除暦に従って防除を行う。
エ モモホモプシス腐敗病、灰星病	<ul style="list-style-type: none"> ・梅雨期は灰星病及びホモプシス腐敗病の重点防除時期であるため、天候の推移に注意しながら薬剤防除を行う。なお、薬剤防除は使用時期（収穫前日数）に十分注意して実施する。
オ ナシ黒星病、輪紋病	<ul style="list-style-type: none"> ・病害虫防除所による6月中旬の発生調査では、ナシ黒星病の新梢葉での発生ほ場割合は平年並だったが（令和5年6月29日付け病害虫発生予察情報・発生予報第3号）、「幸水」では本病の果実感受性が高まる時期であるため、引き続き注意が必要である。罹病部位は見つけしだい除去して適切に処分するとともに、本病や輪紋病の多発が予想される場合は、7月中旬に両病害に効果がある殺菌剤を十分量散布する。
カ ブドウ晩腐病	<ul style="list-style-type: none"> ・摘粒終了後に速やかに袋かけを行い、本病の感染を防止する。

（2）虫害（表3参照）

ア モモハモグリガ	<ul style="list-style-type: none"> ・第3世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合、7月3半旬ごろと予測され、第4世代幼虫の防除適期は7月4半旬ごろと推定される。 ・本種の発生は、放任園や無防除のハナモモ等が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣にある園地では、今後も発生に注意する。
イ ナシヒメシンクイ	<ul style="list-style-type: none"> ・第2世代成虫の誘殺盛期は、今後気温が2℃高く推移した場合、7月3半旬頃と予測され、第3世代幼虫の防除適期は、7月4半旬頃と推定される。 ・本種は、もも等の核果類の新梢伸長が停止すると、なし果実への寄生が増加する。例年、なしの果実被害が多い地域では、今回以降の防除を徹底する。
ウ モモノゴマダラノメイガ	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、本種の被害が発生しているもも園では、7月2半旬ごろまでの防除を重視する。 ・被害果実は、見つけしだい摘除して5日間以上水漬けにするか、土中深く埋めるなど適切に処分する。
エ カメムシ類	<ul style="list-style-type: none"> ・山間部や山沿いの園地では、カメムシ類の飛来状況をよく観察し、集団的な飛来を確認した場合には速やかに防除を行う。
オ ハダニ類	<ul style="list-style-type: none"> ・高温が続く場合は、ハダニ類が急激に増加しやすくなる。ハダニ類の発生状況をよく確認し、要防除水準（1葉当り雌成虫1頭）の密度になったら速やかに防除を行う。

表3 果樹研究所における防除時期の推定（令和5年7月1日現在）

今後の 気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第3世代 誘殺盛期	第4世代 防除適期	第2世代 誘殺盛期	第3世代 防除適期
2℃高い	7月13日	7月16日	7月13日	7月20日
平年並	7月14日	7月18日	7月16日	7月23日
2℃低い	7月16日	7月21日	7月18日	7月27日

注1) 起算日：モモハモグリガ 第2世代誘殺盛期 6月22日

ナシヒメシンクイ 第1世代誘殺盛期 6月13日（演算方法は三角法）

注2) 6月10～15日の気象データ未収集のためアメダスデータ（福島）を使用

6 農業総合センター果樹研究所の生育状況（7月1日現在）

表4 ももの新梢伸長（満開後80日）

品種	新梢長(cm)			展葉数			葉色(SPAD)			新梢停止率(%)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
あかつき	7.9	13.4	59	13.0	15.5	84	43.8	43.5	101	90.0	86.5	104
ゆうぞら	9.7	15.0	65	13.2	15.1	87	45.0	44.1	102	80.0	84.5	95

注) 平年は、1996～2020年の平均値

表5 ももの核障害発生状況（品種：あかつき） (単位：%)

年	満開後日数	30日	45日	50日	55日	60日	65日	70日	75日	85日	95日	収穫果
2023	核頂部亀裂	17.0	35.0	30.0	15.0	-	5.0	15.0	30.0	20.0	-	-
	縫合面割裂	0	0	0	0	-	15.0	35.0	35.0	25.0	-	-
2000 ～2020	核頂部亀裂	35.1	37.1	45.5	51.9	53.3	50.7	49.1	42.9	48.1	49.3	48.8
	縫合面割裂	0	0	1.7	2.4	11.4	22.1	23.0	21.9	32.6	36.8	24.6

表6 ももの収穫状況

品種	収穫開始日			収穫盛期			収穫終期			果実重(g)			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
はつひめ	6/29	7/6	7/4	未	7/9	7/8	未	7/13	7/12	280	264	304	11.1	11.8	13.2
日川白鳳	6/30	7/13	7/1	未	7/16	7/5	未	7/20	7/7	230	236	236	11.3	11.0	12.6
暁星	未	7/21	7/15	未	7/25	7/18	未	7/29	7/22	未	221	241	未	13.0	13.3
ふくあかり	未	7/21	7/22	未	7/27	7/24	未	7/31	7/29	未	266	323	未	13.0	13.0
あかつき	未	7/31	7/28	未	8/4	7/30	未	8/9	8/4	未	269	347	未	13.0	12.6

注) 平年値は、1991～2020年（「はつひめ」「ふくあかり」は2009年～2020年）の平均
下線部は収穫始の果実品質

表7 もも「あかつき」の収穫期予測（6月30日現在）

品種	本年予測	平年	昨年	平年差	
あかつき	収穫開始日	7月24日	7月31日	7月28日	7日早い
	収穫盛期日	7月27日	8月4日	7月30日	8日早い

表8 なしの満開後80日における新梢生長

品種	予備枝新梢長(cm)			不定芽新梢長(cm)			予備枝葉数(枚)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
幸水	113.1	112.7	100	108.1	99.0	109	31.3	30.5	102
豊水	114.4	106.9	107	84.5	90.2	94	30.9	28.9	107

品種	予備枝新梢停止率(%)			不定芽新梢伸長停止率(%)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
幸水	25.0	90.4	28	50.0	88.6	56
豊水	47.9	88.8	54	87.5	87.8	100

注) 平年値：「幸水」の新梢長は1990～2022年、葉枚数は1998～2022年、
「豊水」の新梢長は1991～2022年、葉枚数は1998～2022年の平均値

表9 ぶどう「巨峰」の新梢生長（発芽後40～70日）

発芽後 日数	新梢長 (cm)			展葉数 (枚)		
	本年	平年	平年比 (%)	本年	平年	平年比 (%)
40	52.0	60.4	86	9.4	9.2	102
50	85.2	84.3	101	12.5	12.1	103
60	110.6	112.3	99	15.2	15.3	100
70	138.2	136.3	101	18.2	18.4	99

注) 平年値は2006～2022年の平均

★関連情報のホームページについて（URL、もしくはQRコードからアクセスください）

○県南農林事務所公式Instagram

県南地域の農林水産業に関するトピックス（果樹栽培に係る注意喚起等も掲載しています！）



○県南農林事務所農業振興普及部

農業技術情報、しらかわ果樹情報、果樹の発育ステージなど

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/kennan-nougyoushinkouhukyu/kaju-info.html>



○福島県病虫害防除所

病虫害の発生予察、防除対策、発生状況など

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

